

学校教育目標	家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように ○わかって動ける力を身につけます。 (知)⇒知識・技能 ○適切なコミュニケーション力を身につけます。 (徳、公、開)⇒思考力・判断力・表現力 ○心身ともに健康・安全に生活する力を身につけます。 (体) ・学校教育目標を達成するための学習の中で、学びに向かう力・人間性等を育成します。 ・学校教育目標を達成するために各学部において重点目標を設定し、児童生徒の実態に合わせた学習を行います。						
	創立 43 周年 学校長 中嶋浩一 副校長 渡邊雅彦 坂本征之 2 学期制 指定地域等 栄区、戸塚区、泉区 幼児・児童・生徒数: 178 人 幼稚部: 人 小学部: 79 人 中学部: 46 人 高等部本科: 53 人 専攻科: 人						

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力
わかって動ける力 適切なコミュニケーション力 心身ともに健康・安全に生活する力

育成を目指す資質・能力を踏まえた 「12年間で育てる子ども像」と具体的取組
家庭、地域、社会で豊かな生活ができるように ○自ら考え行動できる人 ○自らコミュニケーションをとって、社会や地域とかがわる人 ○自ら体を動かし健康・安全に生活できる人 を育てます。 令和4年度の具体的取組 ・GIGAスクール構想を推進し、学習活動の充実を図るため、ICT教育について実態に応じた指導内容を検討する。 ・学校教育目標や学部重点目標などを基にした授業づくりに取り組み、計画的な授業実践を行う。

中期取組目標	A適切な指導 ・学校教育目標や学部重点目標などを基にした授業づくりに取り組み、計画的な授業実践を行います。 ・GIGAスクール構想を推進し、学習活動の充実を図るため、ICT教育について実態に応じた指導内容を検討します。
	B効率的な組織運営 ・グループウェア等の活用、働き方改革の視点等から、効率的な組織運営を図ります。 C安全な教育環境 ・安心して学習に取り組めるように、様々な想定に対応した安全管理の徹底を図ります。

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>確かな学力</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教育課程推進部、教育研究部</td> </tr> </table>	知	確かな学力	担当	教育課程推進部、教育研究部	①カリマネ会議を定期的実施し、各学部、学年において児童生徒の実態把握や情報共有、授業の評価改善を行い、指導の充実を図る。②学習活動の充実を図るため、ICT教育について実態に応じた指導内容を検討する。タブレット端末について活動実践を共有するとともに、ICT活用に関する研修の企画、運営を行う。
知	確かな学力				
担当	教育課程推進部、教育研究部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>交流教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>人権・交流教育部</td> </tr> </table>	徳	交流教育	担当	人権・交流教育部	①小学部と中学部において副学籍交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流に関しては、より実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取組となるよう協議しながらすすめていく。
徳	交流教育				
担当	人権・交流教育部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健やかな体</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育、保健体育・保健部・給食部</td> </tr> </table>	体	健やかな体	担当	体育、保健体育・保健部・給食部	①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、嘔吐物処理研修や手洗い等の励行を行い、感染症の予防や拡大防止に取り組む。③給食だよりやばくばく通信、献立表で健康に良い食事や食育についての情報提供をし、食育にかかわる行事を行い、取組の様子を伝える。
体	健やかな体				
担当	体育、保健体育・保健部・給食部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公開</td> <td>地域連携</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>地域支援部</td> </tr> </table>	公開	地域連携	担当	地域支援部	①配布物で近隣地域のイベントについて発信したり、掲示板で放課後等デイサービスや事業所について紹介したりする。また、潮干狩り・手作り作品展・屋上プール開放・イベントでの作業班の作品販売を行う。②学校施設開放(校庭・体育館)を行い、利用団体の余暇活動に貢献する。
公開	地域連携				
担当	地域支援部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">いじめへの対応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>いじめ防止対策委</td> </tr> </table>	いじめへの対応		担当	いじめ防止対策委	①毎月「いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの未然防止、早期発見と早期対応、適切な対処や措置にあたる。必要であれば警察などの関係機関とも連携する。②子どもの人権擁護の観点から、いじめや子供に関する差別に特化した研修に取り組み、教職員の人権意識向上を図っていく。
いじめへの対応					
担当	いじめ防止対策委				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">人材育成・組織運営(働き方)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部</td> </tr> </table>	人材育成・組織運営(働き方)		担当	教務部	①メンター研修の自律的取組や年次取組を継続し専門性向上を図る。②対面式会議と様々なグループウェア会議等を検討内容により適切に使い分けて業務の効率化を図り、学習指導や児童生徒理解に必要な業務時間を確保する。③グラウンドの草刈り、駐車場誘導、プール清掃等の業務の外部委託化を図り、働き方改革を推進する。
人材育成・組織運営(働き方)					
担当	教務部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">センター的機能の取組</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特別支援教育コーディネーター</td> </tr> </table>	センター的機能の取組		担当	特別支援教育コーディネーター	①横浜型センター的機能として学校支援の充実を図る。地域の小中学校等と連携し、コンサルテーションなどを通して特別支援教育の専門性を広める役割を果たしていく。②地域の関係諸機関との連携を通して、地域における障害児者理解促進や日常生活における充実性の向上に寄与する。
センター的機能の取組					
担当	特別支援教育コーディネーター				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">安全管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>防災安全・生活安全部</td> </tr> </table>	安全管理		担当	防災安全・生活安全部	①学校防災計画の理解を深めるため、周知の工夫をする。非常時に迅速に行動できるよう役割を整理し、防災意識を高める。②実践的な訓練等を通して教職員の安全意識や共通理解を高め、緊急時における児童生徒の安全確保体制を整える。
安全管理					
担当	防災安全・生活安全部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">地域学校協働活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>学校運営協議会事務局</td> </tr> </table>	地域学校協働活動		担当	学校運営協議会事務局	①学校周辺地域の方に本校児童生徒や学校行事等の理解を深めていただくための情報発信を行う。②学校運営協議会の委員による授業や行事の参観の機会を設け、学校関係者評価としての助言をいただき、より良い学校づくりに取り組んでいく。
地域学校協働活動					
担当	学校運営協議会事務局				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">担当</td> <td></td> </tr> </table>	担当				
担当					

横浜市立本郷特別支援学校 学校評価報告書（令和4年度）

A:十分達成 B:概ね達成 C:努力必要 D:改善必要

重点取組分野	令和4年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①カリマネ会議を定期的実施し、各学部、学年において児童生徒の実態把握や情報共有、授業の評価改善を行い、指導の充実を図る。②学習活動の充実を図るため、ICT教育について実態に応じた指導内容を検討する。タブレット端末について活動実践を共有するとともに、ICT活用に関する研修の企画、運営を行う。	①新たに授業の単元目標を具体的に振り返り、記録を行った。授業の評価改善の話し合いの中で次の授業や次年度に向け、修正を図った。②ICT教育について、実態に応じたアプリや機能の情報収集をし、指導内容を検討した。端末を使った活動実践を共有し、研修の企画運営を行った。	A
交流教育	①小学部と中学部において副学級交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流に関しては、より実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取組となるよう協議しながらすすめていく。	①副学級交流の窓口となり、各校との交流がスムーズに行えるように手続きを行った。感染症対策をして直接的な交流を行うことや間接的な交流などについてアナウンスを行った。②感染症の観点から学校間の直接交流は難しく、各校と連絡調整を行い、手紙や作品のやり取りなどの間接的な交流を行うことができた。	A
健やかな体	①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、嘔吐物処理研修や手洗い等の励行を行い、感染症の予防や拡大防止に取り組む。③給食だよりやぱくぱく通信、献立表で健康に良い食事や食育についての情報提供をし、食育にかかわる行事を行い、取組の様子を伝える。	①実態に合わせて設定された活動内容を継続的に取り組み、体力づくりに努めた。②感染症対策において、手洗いの励行、検温・消毒を行い、嘔吐物処理研修等にも取り組んだ。③図書部との連携や食材体験などを通して食育を図り、給食だよりやぱくぱく通信等により食育にかかわる情報提供を行った。	A
地域連携	①配布物で近隣地域のイベントについて発信したり、掲示板で放課後サービスや事業所について紹介したりする。また、潮干狩り・手作り作品展・屋上プール開放・イベントでの作業班の作品販売を行う。②学校施設開放（校庭・体育館）を行い、利用団体の余暇活動に貢献する。	①校内掲示板やミラタイムを使用しながら事業所についてやイベント案内を行った。コロナ禍や工事もありイベントは中止になってしまうことが多かったが次年度へ向けた準備を整えることができた。②17団体にに向けて学校開放を行うことができたが使用の公平性については改善が必要である。	B
いじめへの対応	①毎月「いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの未然防止、早期発見と早期対応、適切な対処や措置にあたる。必要であれば警察などの関係機関とも連携する。②子どもの人権擁護の観点から、いじめや子どもに関する差別に特化した研修に取り組み、教職員の人権意識向上を図っていく。	①小さいいじめの芽を見逃さないため、月1回全学部の児童生徒について、いじめ防止対策委員会で確認し対応することができた。また、必要に応じて確認状況を全教職員で共有するようになった。②人権意識向上のため、事例を確認しながら、気になる点を話し合う研修を実施した。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①メンター研修の自律的取組や年次取組を継続し専門性向上を図る。②対面式会議と様々なグループウェア会議等を検討内容により適切に使分け業務の効率化を図り、学習指導や児童生徒理解に必要な業務時間を確保する。③グラウンドの草刈り、駐車場誘導、プール清掃等の業務の外部委託化を図り、働き方改革を推進する。	①メンター研修は自律的な運営ができた。②担当端末を活用したりリモート会議を企画運営しながら、充実した協議になるよう改善を重ねた。③プール清掃は事業所に委託でき、車両誘導は地域ボランティアの協力を得ることができた。職員作業の業務を細分化し分担することで、同時に行い効率化を図った。	B
センター的機能の取組	①横浜型センターの機能として学校支援の充実を図る。地域の小中学校等と連携し、コンサルテーションなどを通して特別支援教育の専門性を広める役割を果たしていく。②地域の関係諸機関との連携を通して、地域における障害児者理解促進や日常生活における充実性の向上に寄与する。	①小中学校の支援においては昨年を上回るほど多くの依頼をいただき、各校において一般学級や個別支援学級共に数多く支援し、特別支援教育の専門性を広める役割を果たした。②地域の関係諸機関との連携を平日より円滑に行い、地域における障害児者理解促進の向上に寄与した。	A
安全管理	①学校防災計画の理解を深めるため、周知の工夫をする。非常時に迅速に行動できるよう役割を整理し、防災意識を高める。②実践的な訓練等を通して教職員の安全意識や共通理解を高め、緊急時における児童生徒の安全確保体制を整える。	①避難訓練を感染症予防に留意しながら実施した。2年ぶりの引き取り訓練で手順を周知、確認した。災害時物資の購入計画検討、校内の安全点検等を行った。②児童生徒の捜索訓練、不審者侵入時対応研修会等を通して、組織的な対応方法、実践に即した動きに結びつけた。	A
地域学校協働活動	①学校周辺地域の方に本校児童生徒や学校行事等の理解を深めていただくための情報発信を行う。②学校運営協議会の委員による授業や行事の参観の機会を設け、学校関係者評価としての助言をいただき、より良い学校づくりに取り組んでいく。	①学校周辺地域の方に「学校だより」を直接お渡ししている。また、学校ホームページを活用し、学習の様子や教職員研修等について発信した。②委員の皆様には、日常の授業や行事の他に、下校時の様子や給食の試食会も実施し、今後の取組に参考となるご意見やご助言をいただくことができた。	B
学校関係者評価	・保護者が学校評価アンケートに答える際、電子申請システムを活用しているが、初期登録作業に手間がかかる等の懸念がある。様々な行事の感想アンケートに電子申請システムを利用することで電子申請システムに慣れていただくのよいではないか。紙面での回答も多かったようなので、紙面で回答できる選択肢も残しておきたい。・職員数が多く、担当している学年、学部、分掌等については把握できているが、全体の動きが見えにくい。各分掌等の実施状況について全体で共有することができるか、検討が必要である。評価にもその点が反映していると考えられる。・地域から協力をいただきながら取組を進めていることは、地域の財産である。これからも、地域に風通しがよい地域との交流を続けていただきたい。小管ヶ谷連合地区としても地域の小中学校と共に、安心・安全に過ごせるよう協力していきたい。・これからも副学級交流、学校間交流では「地域で」という意識を持ち続け共に取り組んでいきたい。・虐待に関する研修や人権意識の向上を図る研修をすすめる際、外部人材（講師、見学者、保護者等）からの視点や観点で自分たちの日常のかかわり方等を見つめ直すことで、新たな気づきがある場合がある。・センター的機能の地域への貢献は本当に大きく活用させてもらっている。特別支援教育コーディネーターが地域の学校支援、保護者支援に取り組みやすい体制を学校全体で作成し、支えているのを感じる。・感染症拡大防止対策については、教育活動において対策を行うことによるメリット、デメリットを考えながら、今後検討をすすめてほしい。		
評価結果に対する学校の見解	・学校運営協議会の助言や保護者、教職員アンケートの結果を参考にしながら、よりよい学校づくりに継続的に取り組んでいきたい。 ・今年度も感染症の影響の中、地域、保護者の方々の協力を得て教育活動を実施することができた。次年度以降、ただ元に戻すのではなく、サステナブル・リカバリー（持続可能な回復）を目指し教育活動を検討していきたい。 ・各部署で取り組んできた成果や課題について、職員全体で共通理解できるような情報発信の仕方や意見交換の場作りについて工夫していきたい。 ・地域連携に関しては、学校運営協議会をはじめとした身近な地域資源を活用し、協働的な関係の構築に向けて検討していきたい。 ・現在の取組状況の良い部分は継続・保持しつつ、今後も学校教育目標の具現化に向けて真摯に取り組んでいくことが大切である。		
中期取組目標振り返り	A適切な指導について…学校教育目標、学部重点目標を意識した指導計画を立てながら、身につけたい力を意識した単元や授業づくりを行うことができた。子どもの実態に応じたICT機器の活用については引き続き研究していく必要がある。B効率的な組織運営…会議や研修については、グループウェアとオンライン方式の良さをそれぞれ生かしながら、内容の充実と時間短縮を目指して、工夫して運営することができた。C安全な教育環境…日常の安全管理に加え、感染症対策についてもガイドラインに基づき確実に取り組んだ。今後も、児童生徒や保護者が安心できる学校づくりに取り組んでいく。		

学校説明会（2/7）後に、「学校運営協議会（2/16）」を開催しました。この「学校評価報告書」は、「学校運営協議会」のみなさまからのご意見を追記した完成版です。
※2/7の学校説明会資料としてお配りしたものに、「学校関係者評価」「評価結果に対する学校の見解」「中期取組目標振り返り」を加えてあります。